

ぜひとも30年後、50年後も糸魚川市がしっかりやっていますよう頑張ってやっていたきたいと思います。次回また質問させていただきますが、ありがとうございました。

以上で終わります。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で、佐藤議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

関連質問なしと認めます。

次に、平澤惣一郎議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

平澤議員。〔1番 平澤惣一郎君登壇〕

○1番（平澤惣一郎君）

糸魚川市駅北大火の初動態勢と復旧・復興について。

今回の糸魚川市議会選挙におきまして、初当選し、議員の末席に加えていただくことになりました平澤惣一郎でございます。

私を支援いただいた市民の皆様の負託に応えることができますよう精いっぱい頑張りますので、よろしく願いいたします。

それでは、これより通告書により一般質問を行わせていただきます。

昨年、12月22日に発生した糸魚川市駅北大火は、4万平方メートル、147棟を焼失する大火となり、多大なる被害をもたらしました。

私は、当時、出火元となった店に隣接する精肉店を営んでおり、第一通報者であり、火元に対し、自宅の水道ホースで消火に当たった者としても生涯忘れ得ぬ大事件でありました。

私の住居兼店舗は、何ひとつ家財道具を運び出す暇もなく、折からの強風にあおられ全焼し、クリスマスを目前に控えた冬の寒空に焼け出され、妻と焼け出された近隣住民ともども途方に暮れておりましたが、その後、松本内閣府副大臣に被災者代表として窮地を訴える機会が与えられ、災害救助法・被災者生活再建支援法が相次いで適用され、瓦れきの撤去費用無料化などが決定されましたことは、感謝にたえません。

また、全国各地から温かい支援金・見舞金・義援金・ふるさと納税が寄せられたことは、打ちひしがれた被災者にとって、どれだけありがたく勇気をいただいたことか。また、瓦れき撤去などの災害復旧に当たり、多くのボランティアの皆様のご尽力もあり、順調に進んだことに対しても、重ねて心より御礼申し上げるところであります。本当にありがとうございました。

一方で、火災発生時の対応は適切であったのか、消火態勢は盤石であったのかなどの疑問も抱いております。消火体制の検証と被災者支援や、今後の復興はどのように進めていくのか、説明を求めるとともに以下の項目についてお答えください。

(1) 駅北大火発生時、なぜ早急に現場に駆けつけず、議会の続行を決めたのか。市長判断は正しかったのか。

(2) 消火の初動態勢・強風対策・現場指揮・出動命令は適切であったか。消防用水等の確保は的確であったか。

(3) ニュースインタビューにおいて、今回の火災について後悔することも反省することもありますと発言したことについて、大きな憤りを抱きました。市長はどのような考えで発言されたのか、真意をお聞かせください。

(4) 糸魚川市駅北大火の復旧・復興は、どのように進めるのか。被災者、地権者、所有者との連携、協力はどのように図られているのか。

2、重大な不祥事への説明責任と行政責任について。

4月16日の市長選挙を経て、米田政権の第4期がスタートいたしました。改選前に大きな問題となり、いまだ解決されていない課題に対し、どう説明責任と行政の長として責任をとるのかお聞かせください。

(1) 市営の宿、柵口温泉権現荘の不正疑惑について。

① 市直営の宿「権現荘」のズサンな管理・放漫経営の結果、1億円を越す巨大な累積赤字を市民の血税で補填し、年間2,000万の黒字化を約束した4億円ものリニューアル後も大幅赤字を計上したことについて、市長としての責任をどう感じているのか。

② 権現荘をめぐる数々の不正疑惑について、市長としてどのように解明されたのか。警察に相談したとのことだが、その結果はいかなるものであるか。

③ 3月議会初日に市監査委員会からの厳しい指摘をどう受けとめているのか。説明のつかない赤字など、財務管理上、決して許されるものではなく、速やかに市民に返還すべきと考えているがいかかか。

(2) 多発した、いじめ重大事態への対応について。

① 過去、いじめ重大事件は何件発生し、それぞれどのような事案で、何件が解決したのか。また、小中学校のいじめ・不登校の推移はどうか。

② いじめ問題第三者委員会からの報告や提言など、これまでの経緯を鑑み、能生中学校相撲クラブの処遇をどのようにお考えか。

③ 相撲クラブ指導者と学校教職員との関係は今後どうなるのか。昨年度末、保護者説明会を行うとしたが、約束は果たされたのか。責任問題が何ひとつ明確にされないまま「相撲のまち、糸魚川」を推進する市長のお考えをお聞かせください。

④ 何ら解決することなく、隠蔽・すりかえ・先延ばしを繰り返し、累積していく不祥事に対し、米田市長は、選挙期間中の演説の中で、権現荘疑惑やいじめ重大事態に対し「ささいなこと・大した問題ではない」「権現荘は赤字になって当たり前」「問題にするほうがおかしい」などと述べられておりましたが、まことに遺憾であります。行政・教育のトップとしての責任問題を市長として、本当に「ささいなこと・大した問題ではない」「権現荘は赤字になって当たり前」と考えているのか、お聞かせください。

以上、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

平澤議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、当日は火災発生情報が入り、直ちに消防長を現場に急行させました。あわせて、火災現場の状況等を確認するため副市長、総務課長を現場に出動させております。問題はなかったものと考えております。

なお、議会の議事運営は、議会によるものと考えております。

2点目につきましては、気象状況等を考慮し、初動時から火災の延焼阻止を図るため、現場指揮本部から消防活動、応援体制、消防水利の確保等、その場に応じた対応をとっております。

3点目につきましては、駅北大火の対応では、幸い火災による犠牲者を出さなかったこと、さまざまな場面において最善を尽くしてきたことからそのような発言に至ったものと考えております。

4点目につきましては、数多くの意見を出し合い、総合理解を深めるため、被災者・関係者説明会や個別意向調査、ブロック別意見交換会を行って、開催いたしております。

2番目の1点目の1つ目につきましては、赤字の原因といたしましては、リーマンショック、東日本大震災、燃料単価の高騰などの外的要因のほか、施設の老朽化、リニューアル工事に伴う休館による収入減、原価管理の不徹底による経費の増などの内的要因があるものと考えております。

2つ目と3つ目につきましては、監査の指摘も含めて、これまでに警察や市の顧問弁護士に相談をし、問題解決に向けて対応を進めているところでありますが、警察の捜査に関してのところであり、現時点ではお答えを差し控えさせていただきます。

2点目の1つ目から3つ目につきましては、このご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますのでよろしくお願いいたします。

2点目の4つ目につきましては、行政運営を進めていく上でさまざまな問題や課題がありますが、解決に向けて対応しております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

○教育長（田原秀夫君）

平澤議員の2番目の2点目の質問にお答えします。

1つ目につきましては、いじめの重大事態の件数は6件で、25年度は、からかい・悪口による事案1件、27年度は、からかい・悪口による事案2件と、からかい・暴行を受けた事案1件、28年度は、暴行を受け、転校した事案1件、からかい・悪口による事案1件であります。解消済みが2件、一定の解消が2件、取り組み中が2件であります。昨年度のいじめの認知件数は68件、不登校児童生徒数は37人であり、どちらも過去5年間では最も多くなっております。

2つ目につきましては、いじめ問題専門委員会からの調査報告を受け、関係者と協議を進めております。

3つ目につきましては、運動クラブと学校との協議を現在、進めております。保護者説明会については、今月末に開催予定です。

以上であります。

○議長（五十嵐健一郎君）

暫時休憩します。

13時まで休憩いたします。

〈午前11時58分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

平澤議員。

○1番（平澤惣一郎君）

それでは、火災の初動体制について、質問いたします。

当日、県議会も行われており、糸魚川から110キロも離れているのに糸魚川の火災の一報が入ると米山知事は、たった1人の糸魚川地区選出の議員のために議会を中断されました。糸魚川市議会においても火災の一報が入り、ある議員より、3時まで休憩をお願いしますの意見を無視し、市長が、きょう中に議会を終わらせようの一言で今まさに強風の中、火災で家をなくし、何十年もかけて築いてきた財産をなくそうとしている市民を助けることもなく、20名の市議会議員を釘づけにし、糸魚川の中枢である部・課長を釘づけにし、火災に対する大動脈を1時間13分もの間ストップさせた。市長の大動脈を1時間13分とめたらどうなりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

暫時休憩願います。

○議長（五十嵐健一郎君）

暫時休憩します。

〈午後1時02分 休憩〉

〈午後1時04分 開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

15分まで暫時休憩します。

〈午後 1 時 0 4 分 開議〉

〈午後 1 時 1 7 分 開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

先ほどの平澤議員の発言の中で、市長が部・課長を含めて釘づけにしたということはありませんし、議事運営は議長の権限ということでもありますので、その辺も含めてお聞き願いたいと思いますのでよろしくお願ひします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

平澤議員。

○1 番（平澤惣一郎君）

それでは、再度質問いたします。

その日は、当日は朝から放送で何度も強風注意報が発令されておりました。にもかかわらず、火災発生で 10 分間の休憩を挟んで、すぐ会議が再開されました。これは今お聞きすると、議長の権限、こういうことだそうです。

でも市長は、その段階で議会に休憩を要求することができたんじゃないですか。もう部・課長さんが皆ここに、現場にそろってるんですから、糸魚川市の中樞が集まってるわけです。なぜ休憩をとらなかったんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり火災は、火災に関係したやはり指揮命令系統がございます。現地では、消防署長がとっておりまして、そして、即情報が入ってからは、最高指揮者であります消防長が出向いております。そしてなおかつ、その後に情報収集を行うために副市長、総務課長が現地に出向いております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

平澤議員。

○1 番（平澤惣一郎君）

市長には、全く市民を助けようとする危機管理能力が欠如しているように思われてなりません。市長は、第一に仕事として、市民の生命・財産を守るのが市長の仕事なんです。それを 1 時間 13 分もの間放っというて、消防長をやった、副市長をやったって命令系統はどうなってる。消防長に分団に対する命令権はあるんですか、ないんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

法律上、あります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

平澤議員。

○1番（平澤惣一郎君）

普通、全国どこの市長であっても議会を中断し、市役所内に対策本部を立ち上げ、現状を把握し、消防団の出動命令、避難勧告、避難誘導、避難場所の確保など、的確に指示を下すのが一般の市長だと思いますが、それを1時間13分の間、全くしませんでした。市民を助けるお気持ちはおありになるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。まことに心外であります。非常に私といたしましても、市民一人一人のやはり生命・財産は大切に捉えておるわけでありまして、決してないがしろにし、軽んじるということはございません。やはり一生懸命、災害に対しての対応もとっておりますし、そういった中身の中において我々は今回の判断をさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

平澤議員。

○1番（平澤惣一郎君）

それでは、続きまして初動体制についてお聞きいたします。

10時28分に出火し、消防車の現場到着は10時35分でした。本署から出動したのは何台なんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

当署の出動は7台であります。これは当日勤務をしている職員、それで出動できる最大の台数であります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

平澤議員。

○1番（平澤惣一郎君）

放水を始めたときには、既に私のうちには火が入り、3分後には屋根を破って火が噴き出す状態でありました。現場で指揮する人は、1人もいませんでした。先ほどのお尋ねの中で、現場指揮は必ずいるという、先般お聞きしたんですけれども、現場の指揮者は1人もいません。後から応援に入るポンプはうろうろ、しかもあの強い火災の中、要は火災の原則として、何が大切か、要は類焼を避けることが一番なんじゃないですか。防御に回るホースはほとんどなかったんですよ。この点についてどうお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

現場指揮者は消防署長がとっております。それから、何が一番大事かということであります。我々としては、まず人命最優先であります。そのために現場において逃げおくれがないかという確認を行うということでありまして、やはり今回の火災においては、発見、それから通報までに相当の時間がたつてるということで、現場到着時には火災が非常に大きくなっていったということでありまして、消防活動上は4面から消火活動を行うということ、基本でありまして、実際そのような活動を行ったところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

平澤議員。

○1番（平澤惣一郎君）

4面からの放水だとおっしゃいましたけれども、私しばらく現場におりました。表にはホース3本、裏に回ったのは、どちらから何本、どちらから何本でしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

全体で7線出ておまして、表側から3線、それから南本町線のもう少しJAさん側のほうからの重寿司さんの通りですね、あそこから2本入っておりますし、また、みいちゃん通りに部署した消防車両からも北側から1線入っておるという状況であります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

平澤議員。

○1番（平澤惣一郎君）

10時47分に第2出動が出されておりますが、この命令は消防長が出されたのか、この命令によって何台の分団のポンプが集まるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

第2出動の命令につきましては、現場の指揮者であります。

消防団につきましては、第2出動で24台、当初、第1出動で7台、第2出動で24台という出動であります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

平澤議員。

○1番（平澤惣一郎君）

そんな台数では、あの火災をとめるわけにはいかないと思うんですよ。それで11時21分に飛び火が確認されております。この飛び火が確認されてから第3出動がかかるまでに14分間、時間がかかっております。この時間も、このときには、もう風速27メートルと一番強い風が吹いていた。ですから、このときに第3出動と同時に第4出動もかけるべきだったんじゃないですか。第4出動をかけても全体的で72台しかないんですよ、糸魚川には、団のポンプは。その辺はどうお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

当初の消防団においては、合併後、それぞれの地域を越えての出動という経験はありません。出動計画上の、隣接してるところは別といたしまして、そういう出動という体制にはなっておりませんでした。ですが、今回の事案を受けて、第3出動以降、やはりこれは全消防団が出動しなければいけないという判断で、今までの経験したことのない出動体制を指示をしたところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

平澤議員。

○1番（平澤惣一郎君）

避難勧告が出たのは、本町、大町2丁目に出たのが12時22分、非常に遅かったために貴重品も持ち出せなかった人たちが大変多くいたわけですが、その辺の責任をどうお感じになりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

当市としては、避難勧告が遅いという認識は持ってございません。これはまた国のあり方検討会においても、今回の火災において犠牲者が出なかったというのは、早目の避難勧告を出したことが要因の1つであるというふうな捉え方をさせていただいておりますので、前段申し上げたとおり避難勧告が遅いという認識はございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

平澤議員。

○1番（平澤惣一郎君）

そんなことは決してありません。遅かったんですよ。もっと早目に出ていれば、貴重品も思い出の品も持ち出せたんです。私も18年間、消防団員やっておりました。それから中央区の防災班長もやっております。安否確認は全てやって、そのとおりの安否確認は全部して、消防署の人間にちゃんと伝達してあるんですよ。それにもかかわらず、こんな体制では到底、糸魚川の市民は納得できないと思うんですが、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

避難の情報等につきましては、当消防本部のほうでも市民の皆さんにもお伝えをした。また、地区の皆さんから声かけをさせていただいたと。そういうような形で避難をさせていただいたというふうに承知をしておりますので、皆様方から現場本部のほうへお知らせをいただいたということは大変ありがたいなというふうに思っておりますし、また市の職員、また警察署の方々、ひいてはまた、自衛隊の皆さんからの応援もいただいて、安否確認、避難の確認等をしたというのが現状でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

平澤議員。

○1番（平澤惣一郎君）

議会は、12時8分に終了しております。それから市長が現場本部を立ち上げたのが13時なんですよ。52分間何をやっておられたんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

議会が終わったのは、今おっしゃる零時08分でございます。その後、市長は直ちに現場に出向き、先に行っております副市長、あるいは総務課長と連携をとりながら対応をしております。避難所については、11時35分に糸魚川地区公民館に避難所を設置いたしまして、避難してこられる方の対応をいたしております。そういう面では、いち早く避難される方の対応をということで実施をいたしてきております。その後も現場の消防活動、それから避難される方への安全・安心の確保のために、その後は避難所を市民会館に移すなどして、その状況に応じて的確に対応してきたものと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

平澤議員。

○1番（平澤惣一郎君）

今回の火災については、本当に多くの場所から応援をいただいております。群馬ナンバーの消防自動車もありました。消防団の団結力、私は感動いたしました。団の皆さんも本当によく頑張っていたと思います。この市長のこういうのんびりとした態度は、私は許せません。どんなお考えなんでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私は決してのんびりなどしておりません。それをのんびりしているという指摘を受けるその要因は、私はお聞きしたいぐらいでございます。私は現地を見て、そして帰ってきてすぐ災害本部を立ち上げ、行動いたしておるわけでありまして。そして、ただ行ったわけじゃなくて、前段に行っているみんなと協議をしながら、そして現状を見ながら対応いたしております。そういったことで、本当にいわれなき中傷は、本当に私は憤りを感じます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

平澤議員。

○1番（平澤惣一郎君）

私も怒りを覚える答えです。やはり市長としては、まず市民を助ける。1時間13分もの間、放つといたんですよ、あなたは。その辺の認識をしっかりといただいて、もっと市民に寄り添ったお考えを持っていただきたい、考え直していただきたい、そう思います。

じゃあ続きの質問です。

市長は、ニュースインタビューにおいて、今回の火災について後悔することはありませんかとの質問に対して、市長は、後悔することも反省することも一切ありませんという返事でした。これは被災された皆様の心を逆なでするような発言で、私も被災した者として怒りを感じました。市民を

ばかにするのもいいかげんにしてください。本当に反省する気はないんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私は、そこだけの今みたいな言葉を返したインタビューはしておりません。その前段でいろいろあったと思います。そういう中で私がそういう発言にもし至ったとしたら、その場その場、そしてできる限りのことをやってきたという形の中でそういうお答えをしたと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

平澤議員。

○1番（平澤惣一郎君）

それでは、質問を変えます。

復旧・復興は、着々と進んでおり、6月28日には、まちづくり委員会からの答申が出るようですが、市は独自に進めるのではなく、被災者の意見、会議所でのまちづくりなどのすり合わせをする中で進めていただきたいと思ひますし、今、ブロック別で10の区枠に分けて聞き取りをやっておられるようですが、被災された皆様の意見の集約されたものが、まだ表へ出てきておりません。ですから、そのような部分も皆さんで共有する中で復興を進めていただきたいと思ひますのでよろしく、この辺いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤 孝君登壇〕

○復興推進課長（斉藤 孝君）

発災後6カ月を経過しようとしております。我々は被災者説明会は、毎月開催をさせていただいております。最初のうちは、全体会で被災者説明会をしてまいりました。時間がたつにつれまして、被災地をA、B、Cのエリアに分けてお話を申し上げてきました。ですけれども、用地の境界ですとか、用地の取り扱いをどうするかということになってきますと、そのエリアではまだ大きいということから、10プラスワンブロック別意見交換会を重ねてきているところであります。そういう会議の中におきましても、復興計画へのご意見もいただいておりますし、また検討委員会からのご助言もいただいております。それらを今まとめ上げているところでございます。今後、その復興計画をどのように実施に結びつけていくかということにつきましては、皆様方と一体となって進めていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

平澤議員。

○1番（平澤惣一郎君）

今、答弁をいただきましたように、やはり皆さんの意見を多く取り入れて立派な復興をやっている

ただきたいと思しますので、その辺よろしく願いいたしたいと思ひます。

続きまして、柵口温泉の問題について質問いたします。

市が合併されまして、柵口温泉を能生からの引き継ぎに当たり、市長としては、社長には就任しないほうがよいのでは、の意見を退けて、市長がみずから社長に就任したのです。かなり経営能力があるのだと思ひました。

でも全く経営能力はありませんでした。7年間で1億円もの赤字、補填するのは市民の税金で行いました。一般社会の会社であれば、倒産して、銀行取引も停止状態です。市は倒産同然の柵口温泉に4億円もの大金をかけ、リニューアルをし、完成の後、年間2,000万円の黒字を胸を張って約束したにもかかわらず、翌年、2,800万円もの赤字でした。やはりリニューアルに当たっては、損益分岐点を算出し、それを上回る売り上げを設定し、その売り上げを達成するには、1日何人の入場を見込み、客単価は幾らに設定するのか、入場者数を達成するにはどのような方法があるのか、計画書を多分作成していると思ひます。普通の企業であれば、銀行さんに精査をしていただいて、借り入れができるかできないかを決定するわけですが、市ではそういう計画書をおつくりになったんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

権現荘につきましては、合併前の旧能生町の時代から市、当時は町でございしますが、町、それから合併後は市直営の地域振興、あるいは都市と農村の交流の促進という意味で直営で運営をしております。そういう中において、毎年毎年、予算を立てる中におきまして、今、平澤議員がおっしゃるような計画書という形で入り込みの顧客目標、そういうようなものを示しながら予算の中で計画を実施してまいりました。

結果的には、平成27年度におきましては、26、27とリニューアル工事をいたしましたので、その休館中の収入の減による赤字の部分、これをリニューアル後、十分に補えなかったということで、平成27年度においては、先ほどおっしゃったような形で約2,300万円ほどの支出に対する収入不足というような形になっております。それに関連して、非常に当時の元支配人の責任が重いのではないかというようなお話がなされておきまして、市のほうでも議会の要請等に基づいていろいろな調査をして、これまで議会の中でも報告をさせてきていただいております。計画はしっかりとつくってやりながらきておりますが、結果的に今申し上げたような形で平成27年度赤字が発生したということでもあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

平澤議員。

○1番（平澤惣一郎君）

書類はつくってあるということなんですけれども、市民が納得できるような計画書をお示しただいて、公開していただくことはできないんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

予算を説明する中で、説明資料という形で既に議会にもお示しをし、公表はいたしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

平澤議員。

○1番（平澤惣一郎君）

市長は、選挙期間中、演説の中で柵口の問題は大したことではないと言われて、1億円もの市民の税金を補填したわけですよ。大したことがないんだったら、この1億円を市民に返していただけるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

1億円は大したことないという発言は、絶対、私はしておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

平澤議員。

○1番（平澤惣一郎君）

1億円ではなくて、柵口の問題は、1億円もう赤字を出してるんですよ。その柵口温泉に対して、大した問題ではないと言う、あれはどういうお考えなんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

言葉尻だけで私はどういったかちょっと前段がないわけでございますので、私はどのような発言をしたか、ちょっと記憶にございませんが、決して私は大した問題でないというだけを、権現荘イコール大した問題でないと言った覚えはございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

平澤議員。

○1番（平澤惣一郎君）

次の質問に移ります。

いじめ・不登校ともに一向に減少しない現状は、ゆゆしき問題であり、特にいじめ重大事態が、

いまだ解決されない状況は異常であります。教育行政が破綻しているとも言えます。これでは安心して学校にやれないという保護者の声をどうお考えになっているのか、お聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

いじめについては、どの学級でも、どの学校でも起こり得るものとして捉えています。認知件数が非常に多くなっておりまして、いじめに対してきめ細かく児童生徒の様子を見とろうとする教職員の姿勢のあらわれではないかと思っております。

ですが、いじめの重大事態にまで発展してしまったということについては、大きく反省をしているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

平澤議員。

○1番（平澤惣一郎君）

能生中学校での相撲クラブの事例において、第三者委員会からの報告や提言など、これまでの経緯を鑑み、能生中学校相撲クラブの処遇をどのように考え、また報告書に記されたのか、2件の転校事例についてもいじめ重大な問題だとすべきではないですか、お答えいただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

運動クラブ等の関係につきましては、先ほど教育長の答弁にあったとおりであります。

また、運動クラブは、社会体育団体でありますので、金曜日の山本議員のご質問にもありましており、社会体育団体について学校がどうこうということもありませんし、市の教育委員会が1民間のクラブに対してどうこうということは言うことができませんが、子供たちの健全育成のためにどういうふうにしてやっていくのが一番いいのかということについて今、学校と運動クラブと、そして教育委員会が入って協議を進めているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

平澤議員。

○1番（平澤惣一郎君）

相撲クラブの指導者と学校教職員との関係は、今後どうなるのか。また、7月中に保護者説明会を行うとした約束は実現するのか。一連の暴力事件と対応のおくれは、相撲のまち糸魚川を推進する市長に対するそんたくではないのか。これについてお答えをいただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

運動クラブと学校と教育委員会が入りましての協議を現在進めている最中でございます。

保護者の説明会につきましては、先ほど教育長の答弁にありましたように今月末までに開催をする予定になっております。昨年度中に、ですから3月末までにお開きをしたいというふうに話をしておったんですが、対応策についてまとめるのが遅くなってしましまして時間がかかりましたので、ようやく発表するところまで、できてきたということで、6月、今月末までに開催の予定でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

平澤議員。

○1番（平澤惣一郎君）

最後に、今回の一般質問に対する答弁は、何ひとつ納得するものではありません。私の力不足でもあります。市長は、市民に対し説明責任を十分に果たしているとはいいがたいものです。行政の長として十分に責任問題を明確にすることを強く要望して一般質問を終わります。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で、平澤議員の質問が終わりました。

次に、新保峰孝議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

新保議員。〔8番 新保峰孝君登壇〕

○8番（新保峰孝君）

日本共産党の新保峰孝です。

私は、駅北大火の取り組み、次期ごみ焼却施設について、米田市長のお考えを伺いたいと思います。

1、駅北大火の取り組みについて。

(1) 駅北大火における消防活動と今後改善すべき課題についてどう考えるか。

- ① 火災予防対策。
- ② 消防法施行令の強化。
- ③ 危険区域の火災防御計画。
- ④ 出動基準。
- ⑤ 消防水利。
- ⑥ 消防の広域連携・協力。
- ⑦ 消防団の役割。

(2) 被災者の避難状況と支援について、どのように考えているか。

- ① 大火時、在宅の要支援・要介護者、障害者、在宅の乳幼児等、支援が必要と思われる方たちが、どのように避難したか把握、記録しているか。
- ② 避難先の現状と今後についてはどうか。